



## 意見よりも事実

おきなわ F B 短信 (13)

(1分間で読めます。)

平成 21 年 3 月 4 日 (水)

金融危機がマスコミで騒がれていることもあって、昔はどんな風だったのかと、最近、ガルブレイスの「大暴落 1929」や高橋亀吉先生の「私の実践経済学」を読んでいる。

面白く思ったのは、前書が「...私は予想しない。歴史が生き生きと語りかけてくることを書き留めるだけである。と言い、後書が「表面的現象にとらわれず、その根本原因に着目せよ。」と、両方とも「事実」を重視せよと語りかけていることである。

両書が、何年にも渡って、いまだに読み続けられ、時代を超えて「長寿」を保っているのは、世の中にバブルや株安などが起き、その時、人々が好景気が一転して恐慌につながった過去のことを知るための知恵を借りたいと思うからだと思う。

これらの本の言っていることと同じようなことを先週行われた沖縄公庫の「地域経済講演会」で感じた。

日本政策投資銀行の藻谷先生の講演は、「沖縄経済と観光関連産業の役割」と題して、日本の人口、年齢構成や首都圏等の経済動向を分析して、沖縄観光の将来のチャンスを考えてといった誠に興味深い話であった。

その中で、沖縄の人も含めて日本人は意見ばかりに興味を持って、事実をとらえていない。「意見よりも事実」が重要で、常に新しい「事実」を見つける必要がある。マスコミに発表される「意見」を重視しすぎ、人々はそれに影響されて必要以上に大きく悲観している。

沖縄県内の過去 5 年間きざみの 15 - 64 歳の人口(需要のポイント年齢)は増加し続けており、小売売上も過去最高を更新している。大切なのは事実に着目することとそれらの事実の将来の変化に着眼することであるとされていて、目の醒める思いであった。

因みに藻谷先生に事実を見る目の鍛え方を質問したところ、「テレビは見ないように、現場を経験して失敗すること、新聞は意見の部分は避けて、小さく報道されている事実を見つけること」とのお応えであった。